

沖縄語の音声における母音の出現頻度について (4枚)

2007年5月26日

沖縄語研究家 船津好明

「沖縄語の母音は a、i、u の三つしかない」などと言われることがあります。この命題の検証のため、筆者は実際の沖縄語の散文を無作為に選んで、母音別の音声の出現頻度を調査しました。入念に言えば、出現頻度は文における実際の音声であって字面(じづら)ではありません。辞典の単語で数えたものでもありません。結果は下表のとおりです。

沖縄語の母音別分布表

母音別構成

()内は観察音数

	a	i	u	e	o	計
短音	36.1% (4042)	34.1% (3823)	29.5% (3302)	0.2% (27)注1	0.0% (1)注2	100.0% (11195)
長音	27.7% (865)	18.3% (572)	8.5% (266)	24.0% (749)	21.5% (671)	100.0% (3123)
計	34.3% (4907)	30.7% (4395)	24.9% (3568)	5.4% (776)	4.7% (672)	100% (14318)

注1「めんしえーん」「あね」 注2「ごつていかち」

短音長音別構成

()内は観察音数

	a	i	u	e	o	計
短音	82.4%(4042)	87.0%(3823)	92.5%(3302)	3.5% (27)	0.1% (1)	78.2%(11195)
長音	17.6% (865)	13.0% (572)	7.5% (266)	96.5% (749)	99.9% (671)	21.8%(3123)
計	100%(4907)	100%(4395)	100%(3568)	100%(776)	100%(672)	100%(14318)

1、調査結果の評価

総評：母音は a、i、u、e、o の五つです。e、o は短音が非常に少なく、ほとんどが長音です。

これによって冒頭の「母音は a、i、u の三つしかない」という場合の母音とは、短音の意味であることが分かります。以下、表の特徴を述べます。

- (1) 長音は a、i、u、e、o に互っています。
- (2) 短音は圧倒的に a、i、u に偏っています。
- (3) 母音を短音長音の別にみると、短音は a、i、u のそれぞれに 80%以上と多く、長音は e、o がそれぞれ 95%以上とほとんどを占めています。

(4) 表には掲げませんが、調査の中で数えた撥音「ん」(N)は、計 1574 音、うち短音 1552 (98.6%)、長音 22 音 (1.4%) でした。

2、調査の要項（音の数え方）

(1) 散文の無作為選定：ここでいう無作為とは、特定の文体や内容の文を恣意的に選ばないという意味です。10 編選びました。統計学でいう母集団、標本、確率などは扱っていません。

(2) 散文の記録形：文字になっているものは、読んだ場合の各音の母音等の別、長短の別を調べました。音声記録のものは、作業の便宜のため、一旦文字化して、各音の母音等の別、長短の別を調べました。ついでに撥音「ん」(N)も調べました。

(3) 観察の対象：散文の中の言葉の音を、辞典にあるなしに関係なく観察しました。文には地域差、個人差、使われ方などが反映されていますが、音に忠実に従いました。例えば、「取ゆん」に対しては短母音の u2、N1 と数え、「取いん」に対しては短母音の u1、i1、N1 と数えました。「山ー」、「山あ」に対しては短母音の a1、長母音の a1 と数え、「山や」に対しては短母音の a3 と数えました。また「めんしえーん」に対しては短母音の e1、長母音の e1、短撥音の N2 と数えました。

言葉は、伝統的なものはもちろん、遠い昔に圏外から入ってきて、沖縄語化したと思われるものも観察対象としました。例：しんしー（先生）、しーとう（生徒）

しかし、現代的外来語は観察の対象外としました。例：ホテル、れーぞーこ（冷蔵庫）また、文意に関係しない「あぬ」、「えー」などの間投の音声も対象外としました。

(4) 母音の区分：音を 50 音に分け、a の列の音、即ち「あ、か、さ、・・・、わ」は、濁音、半濁音、拗音を含め、母音 a に数えました。i、u、e、o の列もこれに準じて数えました。ついでに撥音「ん」(N)も数えました。促音の「っ」は数えません。グロツタルかどうかも区別しません。

(5) 長音の数え方：必ずしも単語単位ではなく、長音に聞こえる音や長音のように書かれている仮名を長音に数えました。具体的には、

単語の中で短音部分と伸ばしの部分が分離できない音は長音としました。

一つの単語の語尾が、後置の助詞の語頭とつながって伸ばして発音されるとき、その語尾を長音に数えました。例えば[jama]（山）[ja]（や）と二つの単語がつながって分離できなくなり、[jamaa]（やまー）となるとき、「まー」の部分の長音に数えました。

一つの単語の語尾の母音と次の単語の語頭の母音が同じで、一気に言っていると長音のように聞こえる場合、長音に数えました。例えば[ci]と[i]の音がつながって[cii]（来たか）となると、[cii]（気、血、乳）と音の区別ができないばかりか、表記が「ちー」となっている場合があります。「来たか」の[cii]は[ci]と[i]の二つの品詞に分離でき、本当は長音ではありませんが、音声現象が長音と変わらず、これを除外するのは非

常に煩わしいため、調査の便宜上長音に数えました。

地域差、個人差、使われ方によって、短母音となったり長母音となったりする場合は、それぞれの場合に従って数えました。

散文の中に韻文が引用されて、長音が短音化する場合は短音として数えました。

例：「うちなじま」(沖縄島)

(参考1) 他の文献の記述例

沖縄語の母音の出現頻度について、既存の文献の記述状況の幾つかを以下に要約して紹介します。

(1) 内間直仁、野原三義編「沖縄語辞典」(研究社)2006年

XV - XVIII 頁「母音は a、i、u、e、o の5つ。3母音といわれることがあるのは共通語の5母音との対応からいうもの。」

(2) 外間守善著「沖縄の言語史」(法政大学出版社)

沖縄語は、

「a、i、u の3母音」13頁(1968年11月)

「基本母音は a、i、u の三つ」33頁(1968年1月)

「基本的な短母音として a、i、u」44頁(1968年1月)

「母音は a、i、u の三つ」133頁(1964年5月)

「母音は a、i、u、e、o の5つ。ただし、e、o は長母音」143頁(1968年1月)

(3) 沖縄語辞典(国立国語研究所)1963年

27-28頁「母音は a、i、u、e、o の5つ。このうち e、o は少例を除き長母音。短母音は少例を除き a、i、u の三つ」

(4) 伊波普猷全集第8巻(平凡社)

439頁「e、o の短母音はない」

460頁「母音は a、i、u の三つしかない」

521頁「母音は a、i、u の三つだけ」

(5) B.H. チェンバレン「日琉語比較文典」1976年(原典は1895年)

11~12頁「3母音 a、i、u が基本で、長短両形で現れる。e、o は長母音のみ」

(参考2) 伊波普猷の記述の謎

伊波普猷が「めんしえーん」, 「とーとーめー」, 「おーえー」, などの言葉を知っていたとして、彼がなぜ「母音は a、i、u の三つ」と言ったのか、その事情の解明は今後の課題です。

(参考3) 他の母音統計

伊波普猷全集第8巻(平凡社)521~522頁に、母音の出現度数の統計があります。表の形や計、%の数字は筆者によります。(下表)

沖縄語版新約聖書の母音構成

()内は観察音数

	a	i	u	e	o	計
短音	33% (2009)	33% (2039)	34% (2065)	0.2% (13)	0% (0)	100%(6126)
長音	37% (349)	17% (161)	14% (136)	20% (191)	12%(116)	100% (953)
計	34% (2358)	31% (2200)	31% (2201)	3% (204)	1% (116)	100%(7079)

この表の母音構成は、筆者の調査結果と傾向は同じですが、個々の数値にはだいぶ異なるものがあります。原因は、筆者の表がここ30年位の間の種々の散文であるのに対し、この表は当時の特定の文であることや、数え方にもよると考えられます。

(参考4) 改めたい認識

人は、目についた短い一言「母音はa、i、uの三つ」を鵜呑みにして引用し、それが孫引きされ、現在の沖縄語の一般知識として冒頭のように言われるに至ったものと思われま

す。誤解のない言い方としては、「母音はa、i、u、e、oの5つ、短母音はa、i、uの3つ、長母音はa、i、u、e、oの5つ」で、このは個別に言ってもよいし、まとめて言ってもよいもので、筆者の検証結果もこれを裏づけています。

沖縄語に関する船津好明の最近の論文リスト

- ・ 沖縄語普及の一層の推進について(9枚) 2007年3月5日
- ・ 沖縄語普及協議会の書法の試行結果について(4枚) 2007年3月6日
- ・ 沖縄語の学習のための漢字の使い方の例(5枚) 2007年3月28日
- ・ 沖縄語の中の漢字への振り仮名と送り仮名の例(2枚) 2007年4月11日
- ・ 沖縄語の学習のための漢字について(第1次案)(3枚) 2007年4月17日
- ・ 沖縄語の表記における長音の表し方について(3枚) 2007年4月29日
- ・ 沖縄語の表記における旧仮名の活用について(5枚) 2007年5月5日
- ・ 沖縄語の学習のための漢字について(第2次案)(5枚) 2007年5月6日
- ・ 沖縄語の学習における小書き文字の問題(3枚) 2007年5月14日

照会先：〒1870002 東京都小平市花小金井2-6-1 船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp